

県立津久井湖城山公園におけるシロマダラの記録

清水 海渡*・秋山 幸也

* 神奈川県立津久井湖城山公園

1 はじめに

シロマダラ、*Dinodon orientale* は北海道の一部、本州、四国、九州に生息する小型のヘビ類である。山地から平地までさまざまな環境に生息している。夜行性で日中は岩の隙間などに隠れていることが多い上、体も小さいため人目につきにくい。

著者らは2012年6月24日に相模原市緑区で1個体を発見した。これは相模原市における数少ない記録の一つとなるので、ここに報告する。

2 発見の状況

2012年6月24日に神奈川県立津久井湖城山公園(図1)にあるネムノキのネームプレート裏に隠れているのを公園へ昆虫観察に来ていた小学生が発見した。発見者は種類がわからなかったため、同公園職員である筆者の清水海渡が観察し種類を同定した(図2)。

3 発見地点

県立津久井湖城山公園は津久井湖に隣接し、標高375mの城山を中心に整備された98haの都市公園であ

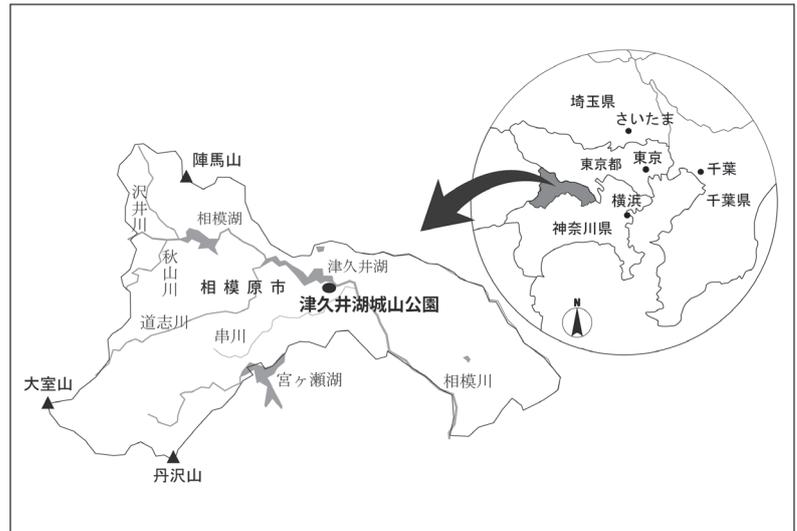


図1 発見場所の位置

る。発見地点は公園の園路沿い、城山中腹の標高190mにある展望広場の横に生えたネムノキである。高さ1.4m地点に設置されたネームプレートの裏に潜んでいた。周囲は落葉広葉樹の二次林とスギ・ヒノキ植林に囲まれた環境である。

4 発見された個体について

体長約25cmの幼体で白色と黒色のコントラストの強い色彩であった。観察開始15分後にネームプレートの裏から10分ほどかけて木をつたわって地面におり、藪へ移動した。

5 ヘビ類の確認記録について

相模原市内だけでなく、神奈川県内ではシロマダラの生息情報が著しく少ない。また、シロマダラに限らず、ヘビ類は全体的に生息状況が正確に把握されているとは言い難い。特に、農地や人家周辺に生息するヘビ類を中心に生息環境の減少や悪化が懸念されており、今後、ヘビ類に関する生息情報の蓄積が重要となるだろう。



図2 シロマダラ(清水撮影)

6 謝辞

第一発見者の小学生である榊田皐士郎さんとご家族には発見と同時に筆者に連絡をくださり、心より感謝の意を表します。

引用文献

松橋利光・富田京一, 2007. 山溪ハンディ図鑑 10 日本のカメ・トカゲ・ヘビ, 178p-179p. 山と溪谷社, 東京.